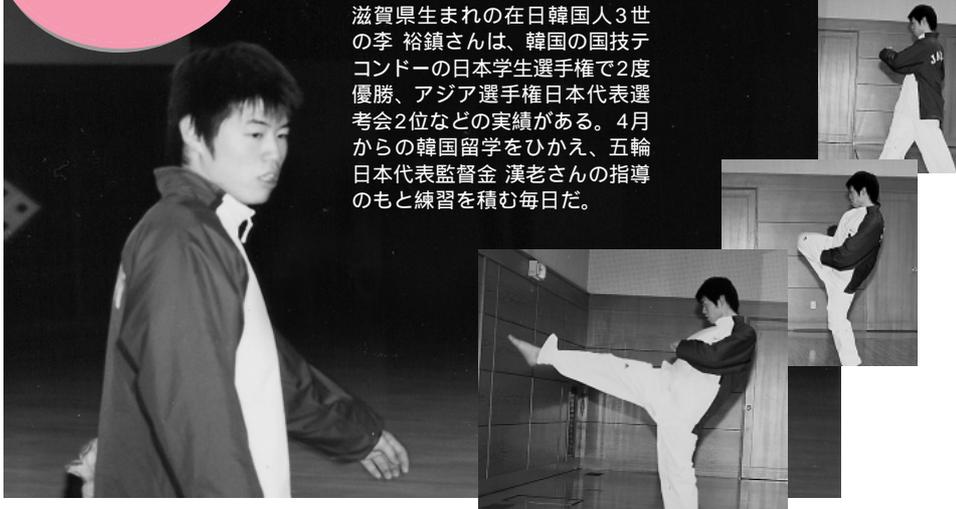


在住外国人 INTERVIEW

り 李 ゆうぢん
李 裕鎮 さん

滋賀県生まれの在日韓国人3世の李 裕鎮さんは、韓国の国技テコンドーの日本学生選手権で2度優勝、アジア選手権日本代表選考会2位などの実績がある。4月からの韓国留学をひかえ、五輪日本代表監督金 漢老さんの指導のもと練習を積む毎日だ。



ただ強くなりたかった

滋賀県でお生まれなんですね。

生まれは滋賀で、1歳から5歳まで京都、その後また滋賀に戻ってきました。

どんな子どもでしたか。

小学校低学年の頃は多感ですから「違う存在」としてストレスも多く、毎日けんかばかりでした。体が大きかったので、乱闘に発展してしまっ。高学年になるとみんな認めてくれるようになりました。

テコンドーを始めたきっかけは。

小さいときから格闘技をやりたいなと思って、危ないから駄目だと親に反対されてたんです。極真空手にも興味があったんですが、高校1年のときに京都でいい道場が見つかったので、始めたんです。

日本ではあまり知られていませんでしたね。

存在自体は知っていたんですが、日本で知られるようになったのは、岡本依子選手が銅メダルを獲ったシドニー五輪以降ですね。

最初から選手を目指して。

あまり考えてなかったです。ただ強くなりた、黒帯がほしいとは思ってました。高校の頃からメダルは獲っていましたが、本当の出会いには大学1年のときに今の金 漢老師範に誘っていただいてからかも知れません。

柔軟性をもって「変化」をつける

金師範は日本代表監督をされていますね。

韓国では伝説の人なんですよ。国際師範としてアメリカで指導されていたんですが、10年前にも日本テコンドー協会から講師として呼ばれ、一時アメリカに帰ったんですが、また日本に呼び戻されたんです。

いい先生に出会われましたね。

運がよかったですね。大学でも、4年生になってから人生観が変わるくらい大きな出会い

があったんです。いろんな映画を教材に講義をされる心理学の教授なんです、セルフコントロールすることと「変化」することの大切さを教わりました。ワールドカップで韓国選手に負けた原因を考えていたとき、ふと先生の言葉がよぎって、ただ根性だけではだめなんだ、「変化」できる柔軟性をもってトライしなければ、ということが分かったんです。

以前から金師範からも「練習に変化をつける」と指導していただいていたんですが、その意味がようやく分かり、テコンドーの実力も伸びたと思います。それからは、師範のひとつひとつの言葉が重く感じてきました。

出会いを生かす柔軟性も大事ですね。

英語の授業では、異文化交流や価値観の違いなどを学んだんですが、自分にとってはいろんなことと関連づいて、得たものは大きかったです。練習はもちろん、人生のいろんな場面で固定観念にとらわれないようにしようと思っています。

これからもどんどん強くなっていきそうですね。

こんなこと言っても、どこでこけるか分からないですよ(笑)。

日本国籍を取得するつもり

目標は五輪ですね。

もちろん目標にしています。

日本の国籍を取得されるんですか。

申請はまだしていませんが、する予定です。両親は基本的には反対なんですけど「自分の人生なので自分で決めなさい」という感じです。

ご自身は、なにが引っかけるところはありませんか。

ないと言えば嘘になります。父親には申し訳ないんですが、五輪に出場するという目標は目標として考えています。年を取ってからできるものでもないし、時間との競争で、チャンス

はそうあるとは思われません。

韓国は選手層も厚く、仮に代表に選ばれる実力があっても、やはり本国の選手を出場させたがるでしょうから、現実問題として韓国代表は無理でしょう。

自分にとってオリンピックに出場することは、今後の人生展開でも大きなキャリアになると思います。

でも、国籍を変えることは別にして、日本と韓国の根本的な問題はまだ解決していないですね。例えば韓国人も日本人もアメリカに住んだら、本名を名乗りますよね。でも日本の中では、そうじゃなく、問題を分かりにくくしているのが、よく分からない。

だから姓はそのまま日本籍を取得するというのも面白いと思うんです。

韓国へテコンドー留学

4月に韓国へ留学されるんですね。

韓国へは何回行ったことはあるんですが、長期は初めてです。テコンドーが強いソウルのソングンガン大学に行く予定です。他に日本人選手が留学している大学もあるんですが、同じところだとどうしても甘えてしまう部分があるので、そうでないところをあえて選びました。うまく説明できないんですが、日本人選手はライバルですし、行くからには周りが韓国人だけの環境に入ろうと思いました。

言葉は大丈夫ですか。

基本的には大丈夫です。両親は完全にしゃべれるので、僕も子どもの頃はずっとしゃべれました。韓国にテコンドー留学するとは夢にも思っていなかったんで、少し忘れていたんですが。

3月までは県立武道館で、テコンドー道場もされてるんですね。

初心者でも興味あるかたはぜひ来ていただきたいですね。

滋賀県と滋賀県人にメッセージがあれば。

もっと活躍してほしいですね。能力がある人はいっぱいいるのに、それを育成する機会や施設が少ないのが残念です。才能があっても、それを引き出してくれる人がいないと伸びていきませんから。

ご活躍を期待しています。

4月になってまだ日本にいたら「あ、留年ったな」と思ってください(笑)。



プロフィール

1980年7月10日、滋賀県生まれ。日本学生選手権で2度優勝(2000年、2001年)、全日本選手権3位(2000年、2002年)、アジア選手権日本代表選考会で2位の成績を残す。平成13年度滋賀県スポーツ顕彰受賞。2003年4月龍谷大学経営学部卒業後、韓国ソングンガン大学へ留学予定。

テコンドーとは韓国の国技で足を中心に使う特徴を持った格闘技です。漢字では「跆拳道」と書き、「跆」は蹴るという意味、「拳」は殴るという意味。「道」は武道としての意味を表しています。1988年ソウルオリンピックに公開競技として登場。2000年のシドニーオリンピックから正式種目になりました。